

令和5年5月30日

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長
(公印省略)

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予報第3号を下記のとおり発表したので送付します。

令和5年度病虫害発生予報第3号

令和5年5月30日
岡山県

予報概評

作物名	病虫害名	発生時期	発生量
水 稲	葉いもち	並	並
	ヒメトビウンカ	—	並
	ツマグロヨコバイ	—	少
	ニカメイガ	—	並
ジャガイモ	疫病	並	並
モ モ	灰星病	—	やや多
	黒星病	並	やや多
	せん孔細菌病	—	並
	モモハモグリガ	早	やや少
	ナシヒメシンクイ	—	並
	カメムシ類	—	少
ブドウ	べと病	並	やや多
	うどんこ病	並	並
	灰色かび病	並	並
	フタテンヒメヨコバイ	遅	少
トマト	疫病	並	並
	灰色かび病	—	並
	葉かび病	並	並
キュウリ	べと病	—	並
	褐斑病	—	やや多
	炭疽病	並	並
ダイコン	軟腐病	並	並
	コナガ	—	やや少
野菜全般	アブラムシ類	—	やや少
	モザイク病	—	並
	ミナミキイロアザミウマ	—	並
キ ク	白さび病	並	並
	ナミハダニ	やや早	並

1. 普通作物

(水 稲)

(1) 葉いもち

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. 中北部地帯の田植時期、生育概況は概ね平年並である。

イ. 5月25日の季節予報(1か月予報)によると、6月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合、発生をやや助長する条件となる。

防除上の参考事項

ア. 育苗箱施用剤の残効は40～60日とされており、5月中旬までの田植えでは6月下旬頃から効果が低下すると考えられるので、その後病斑がみられる場合は薬剤を散布する。

(2) ヒメトビウンカ

予報内容

発生量 ヒメトビウンカ(第1世代成虫) 並

予報の根拠

ア. 県予察圃場における5月のヒメトビウンカ成幼虫の発生量は73頭であり、平年(78.2頭)並であった。

(3) ツマグロヨコバイ

予報内容

発生量 ツマグロヨコバイ(第1世代成虫) 少

予報の根拠

ア. 県予察圃場において5月のツマグロヨコバイ成幼虫の発生量は3頭であり、平年(9.7頭)より少なかった。

防除上の参考事項

ア. ツマグロヨコバイが媒介する萎縮病は、近年少発生が続いている。

(4) ニカメイガ(越冬世代成虫)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおいて、5月4半旬までに平年同様誘殺を認めていない。

(ジャガイモ)

(1) 疫病

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. 5月17、18日の巡回調査によると、平年同様発生を認めなかった。

イ. 5月25日の季節予報(1か月予報)によると、6月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合、発病をやや助長する条件となる。

防除上の参考事項

ア. 発生圃場では、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

2. 果 樹

(モ モ)

(1) 灰星病

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 5月9日の巡回調査によると、花腐れの発生圃場率は7.1%（平成15.4%）で平成より低かったものの、5月22日の巡回調査における芽枯れ、枝病斑の発生量は平成よりやや多く、幼果への感染量は平成よりやや多いと考えられる。

イ. 5月25日の季節予報（1か月予報）によると、6月の降水量は平成並か多いとされており、降水量が多い場合、発生をやや助長する条件となる。

(2) 黒星病

予報内容

発生時期 **並** 発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. モモの生育は平成並で推移している。

イ. 5月22日の巡回調査によると、枝上の越冬病斑密度は、平成より少なかった。

ウ. 幼果における本病の潜伏期間は約35日（果実生長第2期以降は20日）とされている。5月の降水量は平成より多く、幼果への感染は平成より多いと考えられる。

(3) せん孔細菌病

予報内容

発生量 **並**

予報の根拠

ア. 5月22日の巡回調査によると、発病葉の発生圃場率は14.3%で平成（20.0%）よりやや低かった。

イ. 5月25日の季節予報（1か月予報）によると、6月の降水量は平成並か多いとされており、降水量が多い場合、発生をやや助長する条件となる。

ウ. 県南部の7月下旬のモモせん孔細菌病の発生と関係の高い「昨年の8月中旬の発生圃場数」（岡山県病虫害防除所調査）は少ない。

(4) モモハモグリガ（第2世代幼虫）

予報内容

発生時期 **早** 発生量 **やや少**

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおいて、5月10日に誘殺が認められ、平成（5月16日）より早い。

イ. 赤磐市のフェロモントラップによると、5月1～4半旬の誘殺数は1頭で、平成（0.3頭）並であった。

ウ. 5月22日の巡回調査によると、発生圃場率は0%で平成（1.8%）より低かった。

エ. 5月25日の季節予報（1か月予報）によると、6月の気温は平成並か高く、降水量は平成並か多いとされており、本虫の発生を助長する条件ではない。

(5) ナシヒメシンクイ

予報内容

発生量 **並**

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップによると、5月1～4半旬の誘殺数は3頭で、平成（0.8頭）並であったが、越冬世代成虫の誘殺数（4月）は75頭で平成（27.1頭）より多かった。

イ. 5月22日の巡回調査によると、心折れの発生圃場率は0%で、平成（6.8%）よ

り低かった。

ウ. 5月25日の季節予報(1か月予報)によると、6月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、本虫の発生を助長する条件ではない。

(6) カメムシ類

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における5月1～4半旬のチャバネアオカメムシの誘殺数は0頭で、平年(22.2頭)より少なく、ツヤアオカメムシの誘殺数は1頭で平年(16.1頭)より少なかった。フェロモントラップでのチャバネアオカメムシ誘殺数は2頭で、平年(187.5頭)より少なかった。

イ. 5月22日の巡回調査によると、発生圃場率は0%で平年(12.5%)より低かった。

ウ. 5月25日の季節予報(1か月予報)によると、6月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、本虫の発生を助長する条件ではない。

(ブドウ)

(1) ベと病

予報内容

発生時期 並 発生量 やや多

予報の根拠

ア. ブドウ(ピオーネ)の生育は平年並で推移している。

イ. 県予察圃場のピオーネ、ネオマスカットにおいて、平年と同様に5月下旬まで発生を認めていない。

ウ. 5月22日の巡回調査によると、平年同様発生を認めなかった。

エ. 5月25日の季節予報(1か月予報)によると、6月の降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合、発生をやや助長する条件となる。

(2) うどんこ病

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. ブドウ(ピオーネ)の生育は平年並で推移している。

イ. 5月の日照時間は平年並であり、本病の発生を助長する条件ではない。

ウ. 5月25日の季節予報(1か月予報)によると、6月の降水量は平年並か多いとされており、発生を助長する条件ではない。

(3) 灰色かび病

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. ブドウ(ピオーネ)の生育は平年並で推移している。

イ. 5月22日の巡回調査によると、発病花穂の発生圃場率は0%で平年(5.7%)より低かった。

ウ. 5月25日の季節予報(1か月予報)によると、6月の降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合、発生をやや助長する条件となる。

(4) フタテンヒメヨコバイ

予報内容

発生時期 遅 発生量 少

予報の根拠

ア. 5月22日の巡回調査によると、被害発生圃場率は0%で、平年(5.2%)より低

かった。

イ. 5月25日の季節予報（1か月予報）によると、6月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、本虫の発生を助長する条件ではない。

3. 野 菜

（トマト）

（1）疫病

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. 5月22、23日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年（3.9%）並であった。

イ. 5月25日の季節予報（1か月予報）によると、6月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合、発病をやや助長する条件となる。

（2）灰色かび病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 5月22、23日の巡回調査によると、発生圃場率は50.0%で平年（44.6%）並であった。

イ. 5月25日の季節予報（1か月予報）によると、6月の気温はほぼ平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合、発病をやや助長する条件となる。

（3）葉かび病

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. 5月22、23日の巡回調査では、発生を認めず、発生圃場率は平年（33.0%）より低かった。

イ. 5月25日の季節予報（1か月予報）によると、6月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合、発病を助長する条件となる。

防除上の参考事項

ア. 本病の初発生時期（雨除け栽培トマトでは6月下旬～7月上旬）と病勢進展時期（7月下旬～8月上旬）に効果の高い殺菌剤を予防散布する防除体系は、葉かび病の防除に有効である。

（キュウリ）

（1）べと病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 5月22、23日の巡回調査によると、発生圃場率は33.3%で平年（26.8%）並であった。

イ. 5月25日の季節予報（1か月予報）によると、6月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合、発病をやや助長する条件となる。

（2）褐斑病

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

- ア. 5月22、23日の巡回調査によると、発生圃場率は33.3%で平年(13.7%)よりやや高かった。
- イ. 5月25日の季節予報(1か月予報)によると、6月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合、発病をやや助長する条件となる。

防除上の参考事項

- ア. 被害葉は初期に除去し、処分する。
- イ. 岡山県下ではアミスター20フロアブル、トップジンM水和剤、カンタスドライフロアブル、ゲッター水和剤に対する耐性菌が広く確認されているが、ジマンダイセン水和剤、ダコニール1000などによる病原菌感染前の予防散布が有効である。

(3) 炭疽病

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

- ア. 5月22、23日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年(2.5%)並であった。
- イ. 5月25日の季節予報(1か月予報)によると、6月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合、発病を助長する条件となる。

(ダイコン)

(1) 軟腐病

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

- ア. 5月22日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年(10.0%)並であった。
- イ. 5月25日の季節予報(1か月予報)によると、6月の気温はほぼ平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合、発病を助長する条件となる。

(2) コナガ

予報内容

発生量 **やや少**

予報の根拠

- ア. 赤磐市における5月1～4半旬のフェロモントラップへの誘殺数は44頭で、平年(49.0頭)並であった。
- イ. 5月22日の巡回調査では、発生圃場率は0%で平年(24.5%)より低かった。

(野菜共通)

(1) アブラムシ類とアブラムシ伝搬性のモザイク病

予報内容

発生量 アブラムシ類 やや少
モザイク病 並

予報の根拠

- ア. 赤磐市における5月1～4半旬の黄色水盤への飛来数は228頭で、平年(522.9頭)よりやや少なかった。
- イ. 5月22、23日の巡回調査によると、アブラムシ類の発生量は平年並であった。モザイク病の発生は認められず、発生圃場率は平年(キュウリ:0%、トマト:0%)並であった。

ウ. 5月25日の季節予報（1か月予報）によると、6月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、本虫の発生を助長する条件ではない。

(2) ミナミキイロアザミウマ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 5月23日の巡回調査によると、ナスでの発生量は平年並であった。

イ. 5月25日の季節予報（1か月予報）によると、6月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、本虫の発生を助長する条件ではない。

4. 花き

(キク)

(1) 白さび病

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. 5月22、23日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年（1.9%）並であった。

イ. 5月25日の季節予報（1か月予報）によると、6月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合、発病をやや助長する条件となる。

(2) ナミハダニ

予報内容

発生時期 **やや早** 発生量 並

予報の根拠

ア. 5月22、23日の巡回調査によると、発生圃場率は22.2%で平年（0%）よりやや高かった。

イ. 5月25日の季節予報（1か月予報）によると、6月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合、本虫の発生を抑制する条件となる。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/>です。

